

日商簿記 2 級直前対策講座

過去問を解いた後に、
講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座
＜工業＞標準原価計算



収録時、プロモーションとして一部のみの公開予定でしたが、現在は直前対策講座＜工業＞標準原価計算編は、最後まで無料で公開しています。こちらの講座を参考に、よろしければその他の直前対策講座もご購入ください。

過去問を解いた後に、講師の追加質問に応える事で応用力を高める講座

(標準原価計算)

まずは 135 回日商簿記の出題の意図を確認しましょう

(出題の意図)

標準原価計算は原価管理のために必要不可欠な計算技法です。この原価管理は差異分析を通じて行われます。本問では、差異分析の計算のうち、製造間接費の差異分析を出題しました。ここで、製造間接費は変動予算が適用されていますが、この変動予算がどのような原価で構成されているか、さらには、そこで計算する標準製造間接費と実際に発生した製造間接費との差異を分類して計算できるかを見るための問題となっています。

標準原価計算としては極めて基本的な問題であり、製造間接費の変動予算と実際発生額との関連が理解できれば解答可能な問題です。標準原価計算については、このような基本問題から完全に理解できるよう取り組んでほしいと思います。

(講評)

標準原価計算は、多数の企業において採用されていることもあり、重要な原価計算方法と考えることができます。このこともあり、過去に何度も出題されています。最初は時間がかかるかもしれませんが、基本的な問題から練習することで、十分理解できるものと思われます。しかしながら、今回は、そこまで学習が進んでいない、あるいは、苦手意識などがあるのか、高得点を得ている答案は多いとはいえませんでした。

標準原価計算は重要な計算方法なので、是非とも理解してほしいと思います。そのためには、この計算の仕組みについて、少し時間をかけて理解することが必要です。このように基本的な計算の仕組みを理解することで、計算問題を十分に解答できるようになります。

では第135回の5問を解いて下さい。

一応20分でどこまで解けるかを考えてみましょう。

その後も、一応最後まで解く努力をしましょう。例えば35分で解けたとしたら、どこを改善すればスピードアップできるかを考えて下さい。

では、解説に入ります

2. では、講師の質問タイムといきましょう

情報を追加します。

製品 1 個あたりの標準原価

直接材料費 @1,000×3.0kg =3,000 円

直接労務費 @600 ×2.0 時間=1,200 円

製造間接費 @780 ×2.0 時間=1,560 円 (これは元々のデータです)

合 計 5,760 円

実際発生額は以下の通りである

直接材料費 @1,100×11,600kg=12,760,000

直接労務費 @680×8,500 時間=5,780,000

製造間接費 6,890,000

合 計 25,430,000 円

①総差異を求めなさい

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	
数量差異	
価格差異	
直接労務費差異	
時間差異	
賃率差異	

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい
 パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい。

材料 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	原価差異()
製造間接費()	
()	()
()	()

賃金 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

製品 (単位:千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
/	/
()	()
()	()

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高()	製品 ()
材料 ()	月末有高()
賃金 ()	
製造間接費()	
()	()

賃金 (単位:千円)	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

製品 (単位:千円)	
月初有高	売上原価
仕掛品 ()	月末有高()
()	()

製造間接費	
諸口 ()	仕掛品 ()
	原価差異()
()	()

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品	300 個
当月完成品	? 個
合 計	? 個
月末製品	500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

<u>月次損益計算書 (一部)</u>		(単位: 円)
I 売上高		()
II 売上原価		
月初製品棚卸高	()	
当月製品製造原価	()	
合 計	<u>()</u>	
月末製品棚卸高	()	
差 引	()	
標準原価差異	()	()
売上総利益		<u>()</u>

<解答>

①総差異を求めなさい

△2,414,000

②下記の差異分析を行いなさい

直接材料費差異	△1,060,000
数量差異	+100,000
価格差異	△1,160,000
直接労務費差異	△860,000
時間差異	△180,000
賃率差異	△680,000

③パーシャルプランにて下記の勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (12,760)
<hr/>	<hr/>
(12,760)	(12,760)

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (12,760)	原価差異 (2,414)
賃金 (5,780)	月末有高 (1,752)
製造間接費 (6,890)	
<hr/>	<hr/>
(28,934)	(28,934)

賃金 (単位:千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (5,780)
<hr/>	<hr/>
(5,780)	(5,780)

製品 (単位:千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<hr/>	<hr/>
(26,496)	(26,496)

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,890)
<hr/>	<hr/>
(6,890)	(6,890)

④シングルプランにて勘定記入を行いなさい

材料 (単位:千円)	
諸口 (12,760)	仕掛品 (11,700)
	原価差異 (1,060)
<u>(12,760)</u>	<u>(12,760)</u>

仕掛品 (単位:千円)	
月初有高 (3,504)	製品 (24,768)
材料 (11,700)	月末有高 (1,752)
賃金 (4,920)	
製造間接費 (6,396)	
<u>(26,520)</u>	<u>(26,520)</u>

賃金 (単位:千円)	
諸口 (5,780)	仕掛品 (4,920)
	原価差異 (860)
<u>(5,780)</u>	<u>(5,780)</u>

製品 (単位:千円)	
月初有高 (1,728)	売上原価 (23,616)
仕掛品 (24,768)	月末有高 (2,880)
<u>(26,496)</u>	<u>(26,496)</u>

製造間接費	
諸口 (6,890)	仕掛品 (6,396)
	原価差異 (494)
<u>(6,890)</u>	<u>(6,890)</u>

3. 以下の情報を追加しましょう。損益計算書を作成して下さい。

当月の製品の情報を追加します

月初製品	300 個
当月完成品	? 個
合 計	? 個
月末製品	500 個

製品 X の販売単価は 10,000 円である

標準原価差異は月毎に損益計算書に反映させており、その全額を売上原価に賦課する

<u>月次損益計算書 (一部)</u>		(単位：円)
I 売上高		(41,000,000)
II 売上原価		
月初製品棚卸高	(1,728,000)	
当月製品製造原価	(24,768,000)	
合 計	<u>(26,496,000)</u>	
月末製品棚卸高	<u>(2,880,000)</u>	
差 引	(23,616,000)	
標準原価差異	(2,414,000)	(26,030,000)
売上総利益		<u><u>(14,970,000)</u></u>